



オピニオン

ランドセルの将来

環境企画 松村 眞

発行日

2012.6.20

いつも家内より少し早く起きる私は、階下に降りるとすぐに歯を磨きながら郵便受けに新聞を取りに出る。歯ブラシを口にくわえたまま外に出るのは行儀が悪いが、短い時間なので人に見られることは滅多にない。1日の初めに吸い込む外の空気は、春なら花の香りを、初夏には緑の風を運んでくる。秋の空気は乾いてさわやかになり、冬は冷たく身がひきしまる。家に戻ると歯磨きと洗面を済ませ、南に面した居間の雨戸を開ける。次にキッチンで湯を沸かし、マグカップにコーヒーをたっぷり注いで座椅子かソファに座る。それからの、コーヒーを飲みながらゆっくりと新聞を読む時間が毎朝の楽しいひとときである。

居間は小さな前庭を隔てて通りに面しており、窓を開けて新聞を読んでいると外から子供の声が入ってくる。近くの小学校に通う子供たちだ。5人から10人がグループになって、ペチャクチャと楽しそうにおしゃべりしながら歩いて行く。急にしゃがみ込んで路傍の花を摘む子や、よそ見をして遅れる子がいる。でもリーダー格の大きい子が、ときどき後ろ向きに歩いて、グループが散らばらないように気を配っている。大部分がランドセルを背負っているが、一見して高学年の子にはランドセルが小さく、低学年の子には大きく見える。ピカピカの一年生は背が低く、真新しい黄色の帽子とランドセルが目立つ。まだ肩幅が狭いので、ランドセルが背中から横にはみ出している。1年生も6年生も同じ大きさランドセルでは、幼稚園を終えたばかりのひ弱な1年生に気の毒な気がする。ランドセルの横に袋を下げている子も多い。それも大きい子は一つではなく、両脇に下げている。運動靴や着替えが入っているのだろうが、雨が降りそうな日は傘もぶら下げている。ランドセルの下にも、鍵とか携帯電話らしきものを下げている子がいる。こうして見ていると、小学生の荷物は決して少なくない。高学年になれば1日に5教科から6教科もあるから、ランドセルの中の教科書やノートは10冊を超えるであろう。

ランドセルという言葉は、幕末に輸入した将兵の背囊を示すオランダ語がなまったものである。通学鞆として全国に普及したのは昭和30年台で、その前は風呂敷が広く使われていた。ランドセルの色は数十年も男の子が黒、女の子が赤と決まっていた。しかし2000年頃からこの固定観念が希薄になり、今ではピンク、茶、緑、青なども売られている。単色だけでなく、多くはないがツートンカラーもデパートに並んでいた。ランドセルは小学校の6年間を通じて使用するので、メーカーには6年間の耐久性が求められている。素材は軽さと丈夫さ、それに手入れの容易さから人造皮革が主流だが、高級品には馬皮も使わ

れている。ランドセルはビジネス用の鞆より部品点数が多く、金具を含めると 100 点以上になる。堅牢さが求められるので、製作はほとんどがていねいな手作業である。作業工程は素材の型抜き、糊付け、ミシンがけ、かしめ、手縫いなど 10 工程以上になる。このように歴史と伝統のあるランドセルだが、今後も今の形態が続くのであろうか。

少し話がそれるが、数年前に独創的な新商品を開発するパソコンメーカーがタブレット型のパソコンを発売した。タブレットというのは板状という意味で、大きさは縦 24 センチ、横 19 センチ、厚さは 9 ミリである。重さは約 600 グラムとノートパソコンの三分の一ぐらいだから、携帯しても苦にならない。通常のパソコンでおなじみのマウスやキーボードがなく、操作は指で画面をタッチするだけでよい。数値や文字を入力するときは、画面にキーボードを呼び出してタッチする。発売前から評判になっていたこのパソコンは、画面がきれいで応答が速い。もちろん、インターネットやメールもできるし、スピーカーがついているから音楽やゲームも楽しめる。カメラがついているので、撮影した写真をただちに送ることもできる。私は量販店でこのパソコンを操作しながら、どんな使い方が向いているのか考えていた。

結論としてキーボードがなく、画面に呼び出して使っても文字入力が少し面倒なのと、画面が小さいのでビジネス文書の作成には向いていないと思う。他社のパソコンとの互換性が低いのも、文書作成に向いていない理由の一つである。一方、作られた資料を見るのには向いている。インターネットは見るのが目的だから向いているし、メールは文字入力が必要だが、短いメッセージが多いので大きな問題ではないだろう。とくに向いているのは、営業マンが訪問先で顧客に商品を説明する時だと思う。保存されている多くの情報を素早く引き出して、画面を見せながら説明できる。色がきれいなので、ファッション、アクセサリー、花、食品などのイメージを伝えるのに威力を発揮するに違いない。宣伝されている読書端末としての利用はどうか。記憶容量が大きいので、数冊の本を丸ごと保存して好きな場所で読むことができる。しかし片手で持ったまま読むには少し重し、文庫本ほど持ちやすくない。だから電車の中で立って読むなら、サイズは小さいが 200 グラムもない読書専用端末の方が向いていると思う。読書専用端末はモノクロが主流だが、小説ならカラーの必要性が低いので問題ないだろう。宣伝では戸外で読書している写真があったが、置いた状態で読むならタブレットパソコンの方が大きく、カラーがきれいなので向いている。ファッション雑誌や子供の絵本などは、少し小さいが楽しく見られそうである。そこで思いついたのだが、学校の教科書にはどうだろうか。サイズを少し大きくすれば、小学生の教科書に多い B 5 版を表示できる。教科書のサイズを A 4 版に拡大する議論があるが、遠くない将来にタブレットパソコンも A 4 サイズに対応できるようになるであろう。では学校教科書に使うと、どんな利点と課題があるか考えてみる。

大きな利点は、たった1枚のタブレットパソコンで、小学校なら1年から6年までの全教科書を収納できる点である。全教科書をあらかじめ収納してもよいが、進学するたびに新しい年度の教科書を入力してもよい。すでに履修した教科書は、そのまま残しておけるから復習には便利だろう。第2の利点は立体画像を扱える点にある。例えば体積の計算方法を勉強するとき、立体を回転させながら説明されれば非常に分かりやすい。第3の利点は時間を追って色と形の変化を細かく見せられる点にある。植物なら小さい芽が育ってやがて花が咲き、実ができるまでの変化を見せられるから、子供たちにとって楽しい学習になるだろう。とくに有効なのは理科実験である。リトマス試験紙がどんな色に変わるのか、酸とアリカリが中和でどんな変化をするのか、実物では面倒な実験を容易に補うことができるだろう。

次に予想される課題と対策を考えてみる。第1の課題は乱暴な扱いで壊れる可能性である。子供だから机の下に落としたり、投げたりするかもしれないが、乱暴な扱いを完全に防ぐ方法はないだろう。むしろ、落としたり投げたりしても壊れない堅牢さを実現する方が容易ではないか。第2の課題は盗難や紛失である。登校や下校の時がとくに危ないが、完全に防ぐ方法は考えにくい。思い切って盗難や紛失にあったら、再度購入してもらうか、義務教育なら再度貸与してもよいのではないか。大きな金額にはならないはずだ。第3の課題は教科書の入力作業だが、専門事業者が担えば紙媒体教科書の製造と配布よりずっと少ない費用で実施できるであろう。第4の課題は、生徒が勉強よりインターネットやメールに埋没する可能性である。だから教科書として使う場合は、通信機能をつけなくてよいのではないか。課題は他にもあるだろうが、思いつく範囲で克服が困難な課題は想像できない。課題より利点の方がずっと大きいのではないだろうか。

最後に環境の視点で利点を述べるなら、紙媒体で教科書を作り配布するのに必要なエネルギーと紙を節減できる。現在、小学校1年から中学3年までの教科書は約8000ページで、この製造に約30キログラムの木材と約10キログラムの石油換算エネルギーが使われている。したがってタブレット端末を小中学生の教科書に使用すれば、1人分でほぼ同量の省エネルギーと省資源効果が得られるであろう。そうなればランドセルの厚さは今の半分でよくなり、重さも半分ぐらいになるのではないだろうか。一方、サイズはA4版の方が便利なので、ランドセルはもっと大きく平べったくなるであろう。したがって私は近い将来、今とは少し違った形のランドセルを背にした小学生を、居間から眺められるようになると思っている。ただしランドセルの脇に下げている袋の解消にはならない。

(おわり)